

学校名 (生徒数)	大津市立仰木中学校 (632名)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：大津市仰木の里五丁目1番1号

電話番号：077-574-3204

【研究の目的， 研究内容】

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

国語A、国語Bでは全設問とも比較的高い正答率が見られた。数学Aでは比較的高い正答率が見られたが、確率を求める問題には課題があった。数学Bでは高い正答率の問題が多くあったが、必要な情報を選択して処理したり、事象に則して解釈したりする力に課題があった。理科では比較的高い正答率が見られたが、天気図から風向を読み取る問題に課題があった。

児童生徒質問紙では全体的に肯定的な回答が多いが、携帯電話・スマートフォンの使用時間や感想文、説明文を書くことについて課題が見られた。

(2) 課題解決に向けた改善策

基礎的・基本的な学力の定着と本校生徒の課題であるコミュニケーション能力を育てるために、すべての教科において子供の交流を取り入れた授業改善を進めている。

子供同士が交流することで、今まで気づかなかった新しいものの見方や考え方を獲得させることがねらい。また、交流によって生徒全員が授業に参加し、言語によるやりとりを通してコミュニケーション能力を高める指導を行っている。

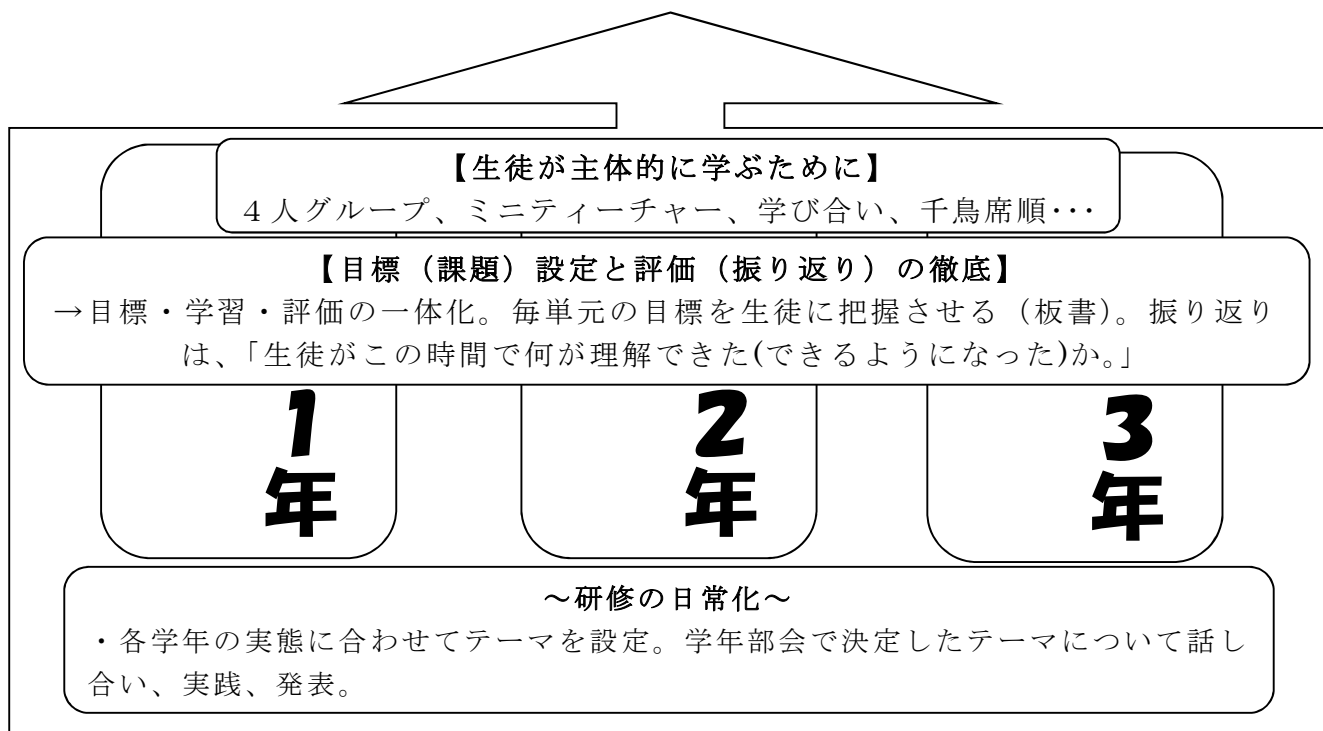
基礎学力が不足している子供に対しては、地域人材や大学生のボランティアによる補充教室を開催し対応している。

筋道立てて考え、文書で表現する力に課題があるので、国語科を中心に他教科や総合的な学習の時間、特別活動等で、根拠を元に意見を書く活動を計画的に取り入れている。

さらに、授業と家庭学習を連動させる宿題のあり方について研究を進めている。

(3) 研究体制

本校では、研修の日常化を図るように校内研究を進めている。校内研究は、年に一回か二回の研究授業のためにあるのではなく、日常の授業の質を高めるためにあると考えている。そのために、学年ごとに研究テーマにアプローチするシステムをとった。また、国語科の教師が校内研究テーマと上記改善策とを同時に追求した授業を行い、授業研究では県・市指導主事からご助言をいただいた。



(4) 1年間の主な取組の経過

- ・ 4月23日（木）全国学力・学習状況調査の自校採点
- ・ 8月20日（木）校内研究会
「主体的に学ぶ生徒の育成～友に学び、共に学ぶ生徒集団を目指して～」
ワールドカフェ形式で交流・協議
大津市立仰木の里東小学校長 上野 眞 氏
- ・ 9月04日（金）第1回授業研究会 2年国語
「語り手に注目しよう」
- ・ 11月17日（火）校内研究全体研究授業・授業研究会
1年国語科「竹取物語の推し貴公子は・・・誰！？」
～集めた情報を根拠として人物像を説明しよう～

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①校内研究として

(3)の研究体制にも示した通り、本校では学力向上の取り組みを校内研究の一部として捉え、「学習者が能動的に学習する授業」の中で追求していきたいと考えた。研究目標を達成するために、大きく2つ行った。

1. 学習者の能動的な取り組みを入れた授業

全教職員の公開授業とその授業の中に必ず学習者の能動的な取組を入れ、評価させるということ。

2. 目標・学習・評価の一体化

充実した評価をすることが次の授業へのサイクルが確立すると考えている。まずは、目標の充実を図り、全ての職員に「学習目標」の徹底を図った。全教職員に「学習目標」と書かれた模造紙を作り、全ての授業に黒板掲示をし、始めるよう促した。その次に、自己評価や他者評価など評価の表面化を目指し、最低でも単元ごとの評価をするようにした。スタートとゴールを明確化させることで、学習がつながることを

目指した。その枠組みのもと、学習者の能動的な取組（学び合い活動など）を入れるようにした。

②国語科として

全国学力・学習状況調査においては全設問とも比較的高い正答率が見られた。結果から、基礎的基本的な学力が定着している一方で、資料を活用して自分の考えを持ったり、筋道立てて文章にまとめたりする力が弱いことがわかった。特に、A問題の読むこと・B問題の書くことの力を問う問題の正答率は全国平均を下回っている。

そのような生徒の実態を踏まえ、読み取ったことをもとにして、根拠を明らかにしながら自分の考えを書くことができる生徒の育成を目指して授業改善に取り組んだ。小説や古典を読み、本文を根拠として引用して自分の考えを書くことをねらいとする学習をすることで、資料を活用し適切な情報を得て、自分の考えをまとめる力がつけられると考える。

[国語科研究授業 単元目標]

2年：語り手に注目しよう！「盆土産」

- ・語り方の工夫を見つけることができる。
- ・文章の描写や比喩が効果的に表現されている部分を根拠として取り上げて自分の考えを文章にまとめることができる。
- ・文章に用いられている漢字を正しく読むことができる。

1年：「竹取物語」の推し貴公子…は誰!?～集めた情報を根拠として人物を説明しよう～

- ・古文を音読して古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に興味を持つことができる。
- ・本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要情報を読み取ることができる。
- ・登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることができる。

[授業における工夫点]

- ・資料・ワークシート等

研究授業以前からの取組として、竹取物語の読み聞かせをして内容の理解の助けとなるようにした。授業においては複数の資料から適切な情報を得られるようにするため、現代語訳を複数用意した。他にも、図説や便覧の絵・写真（説明も含む）も資料として手に取ることができるようにした。それらの資料は各グループに現代語・図説と分けて配布し、自分たちで必要な資料を読み、情報を得ることができるように努めた。また、各活動においてモデルを示し、生徒たち自身が学習のゴールをイメージできるようにした。

- ・交流による学び合いのある授業

内容理解の確認、資料の読み取り、情報の整理、発表準備などの活動において少人数グループを用いて交流が生まれるように努めた。活動を通して、適切な資料の選択、表現の仕方の工夫などについて交流する姿が見られた。成果物の発表はコの字型の座席で行い、学級全体で交流し相互評価をした。交流により、自分たちのものの見方や考え方を広げることができる機会が生まれ、その後の学習にいかしていこうとする姿につながっている。

図1 プリント（推し貴公子のおすすめポイントと資料を引用して根拠を挙げる）の使い方

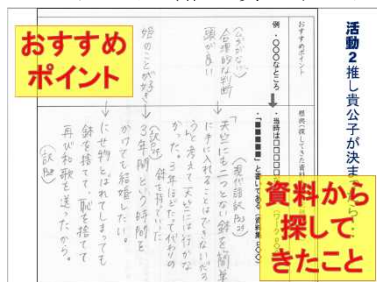
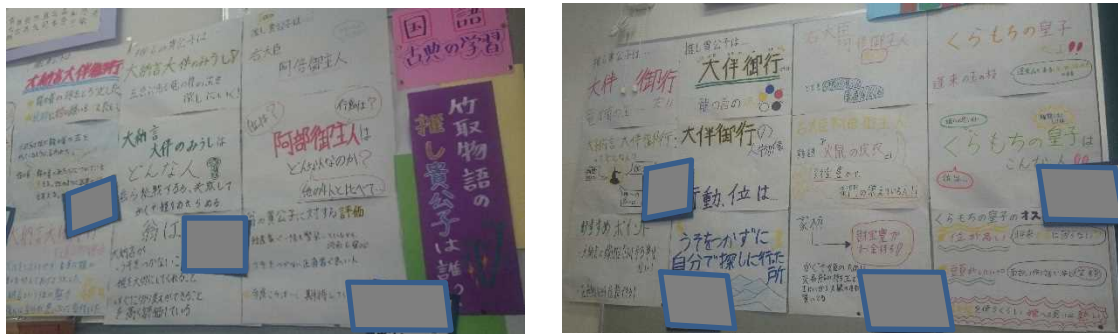


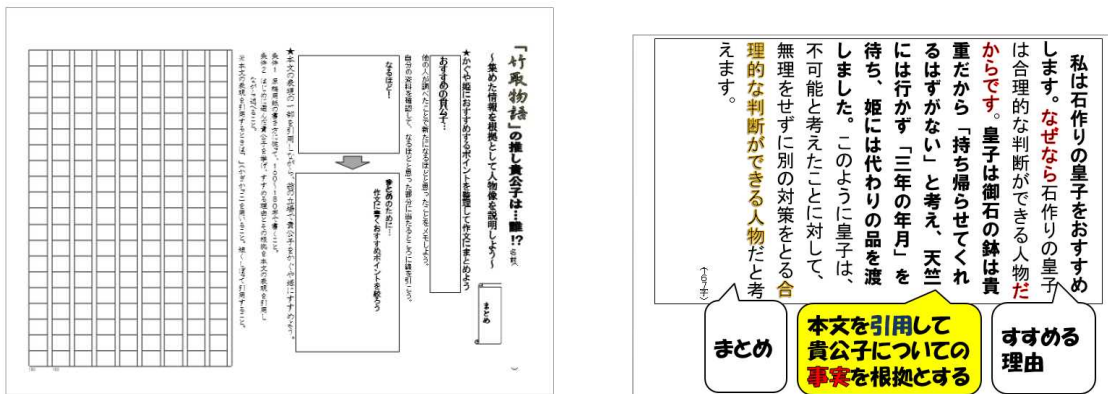
図2 フリップの完成モデル



図3 フリップの完成版



4 本文の一部を引用しながら貴公子をすすめる文章を書くためのプリントとモデル



【研究成果と課題】

(1) 研究成果

ア 校内研究全体について

すべての教科指導において、基礎的基本的な内容を繰り返し指導するとともに、個々の生徒がつまづいた部分を生徒同士が教え合う交流の時間を持つことで解消を図った。教科の特性や指導内容に応じて、指導者が交流の時間や方法を工夫した。

特に、理科では学び合いを取り入れる中で、複数学級による合同授業や異学年との合同授業を実践している。生徒の感想として「いつもと違う人と話し合うことで今まで考えつかなかったことを思いつくようになった」「上級生と学習することで緊張感があった。先輩に教えてもらうことで質問しやすかった。」「下級生に質問されて答えるためには、もう一度よく復習することが大事だ。」等の声があった。生徒同士の交流によって、新しいものの見方や考え方をもちたり、思考力や表現力を深めたりしている様子が見えたりした。

イ 国語科

国語科では内容理解、資料の読み取り、情報の整理、発表準備などの場面で少人数グループを活用した。いずれの場面でも少人数で話し合うねらいや目的、学習のゴールを生徒に具体的に示して思考力、判断力、表現力の伸長に努めた。生徒はグループ内で交流することで、適切な資料を選択できるようになったり、表現を工夫できるようになったりした。

(2) 課題等

本研究を進める上で今後の課題となるのは、以下の点である。

まず、既存の知識や情報を整理し問題解決に必要な要素を選択する判断力である。次に、資料から読み取った内容を課題解決に向けて筋道立てて考える思考力である。交流の中で相手の意見を正確に聞きとり、自分の意見を相手にわかりやすく伝える表現力も重要である。最後に、友達と考えを交流することで新しい考えを生み出す発想力も重要である。

全国学力・学習状況調査の数学、理科、国語の調査結果を見ても上記の学力が課題であることが見て取れる。

各教科で授業改善を進める中で、このような力を発揮する場面を意識的に設定してきたが、今後も単元や教材、学級の実態に応じた効果的な方法を研究する必要がある。また、その効果を可視化するために、思考力や判断力、表現力、発想力を評価する場面を授業の中で設けることが必要である。定期考査や小テストに加えてポートフォリオのような形成的な評価を行い、個々の生徒に改善点を助言することができる授業を構築していくことが今後の課題である。

また、家庭学習と学校の授業を連携させる工夫が必要である。宿題として与える課題は、基礎的基本的なドリルやワークブックだけでなく、授業で学んだ内容を発展的に学習することや、授業の中で友人と交流して発見したことを文章でまとめるといった、思考力を問う内容に移行することが重要であると考えられる。